

令和7年度 病害虫発生予察注意報 第2号

令和7年8月13日
千葉県農林総合研究センター長

オオタバコガの多発生に注意

1. 注意報の内容

- (1) 対象作物及び病害虫名：野菜（特に果菜類）・花き類、オオタバコガ
- (2) 発生地域：県内全域
- (3) 発生量：多

2. 注意報発令の根拠

- (1) 県内8地点のフェロモントラップ調査において、7月のオオタバコガ（写真1、2）の1日当たり誘殺数は3.67頭（平年1.66頭）と過去8年と比較して最も多かった（図）。
- (2) 7月時点で平年の8月並の誘殺があり、誘殺数の増加が著しい。なお、前年7月も過去8年と比較して最も誘殺が多かったが、本年は前年同様に誘殺数が多く推移している。
- (3) 7月22日に発表された気象庁の3か月予報によると、関東甲信地方の8～10月の平均気温は高い確率70%と、チョウ目害虫の発生・増加に好適な環境が続くことが予想されるため、平年を上回る被害が懸念される。

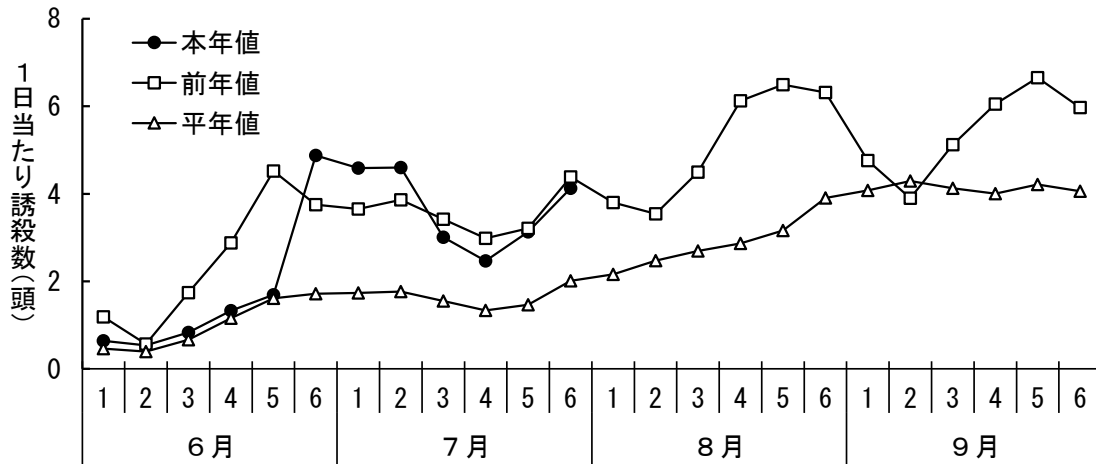


図 フェロモントラップ調査におけるオオタバコガ誘殺数（6～9月、半旬毎）

注）県内8地点の平均値



写真1 幼虫とミニトマト果実の被害痕
(穴をあけ、内部を被害する)



写真2 トマトの葉上の卵
(卵塊ではなく、1個ずつ産卵される)

3. 防除対策

- (1) ほ場をよく観察し、被害痕や糞の近くに幼虫がいる可能性が高いので、見つけ次第、除去する。特に、新芽や花蕾には卵や若齢幼虫がいることが多いので、摘心した側枝や蕾はほ場外に持ち出し処分する。
- (2) 老齢になるに従って薬剤の効果が低下するので、ほ場の見回り等による早期発見に努め、若齢幼虫のうちに薬剤散布等により防除する。
- (3) 施設栽培では施設開口部に防虫ネットを設置して、成虫の侵入を防ぐ。
- (4) 防蛾用黄色蛍光灯の夜間点灯を行う。

4. 注意事項

- (1) 幼虫は、トマト、ナス等の果実内部、キャベツ、レタス等の結球内部、トウモロコシの若い穂、花き類の頂芽や蕾内部を被害する。
- (2) 9月以降も発生が多い状況が維持されることが予想されるため、レタス等でも注意が必要である。レタス等では結球部に食入加害するため、生育ステージに合わせた防除体系により被害の抑制を図る。
- (3) 農薬の使用にあたっては、最新の農薬登録情報を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り適正に使用する。
- (4) 害虫の薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。

- ・ 病虫害発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・ 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。
<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病虫害防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町 180 番地 1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

